

患者の速やかな情報共有化を目指した取り組み～化学療法ファイルの作成～

キーワード: 化学療法 情報共有 医療従事者

○松崎侑希 重富江海 葛籠律子 山口節子 岩佐雅子 有馬裕美子
国家公務員共済組合連合会 佐世保共済病院 5階北病棟

はじめに

現在、化学療法患者の情報収集を行うには情報源が散在しており、得たい情報ごとに資料が違うため情報収集に時間を要し、迅速な情報収集ができる資料の必要性を訴える声があった。そこで、化学療法患者の情報をまとめた資料を作成する事で、医療従事者間の情報共有を迅速に行うことが出来ると考えた。化学療法患者ファイルを作成し使用した結果、情報共有化へ踏み出すことができたので報告する。

用語の定義

化学療法患者ファイル: 化学療法患者の治療の経過をまとめたファイル(以後ファイルとする)。化学療法関連スタッフ: 外来化学療法室看護師、5階南・北病棟看護師、外科医師、薬剤師(以後スタッフとする)。

I 研究目的

化学療法患者ファイルを作成・使用し患者の情報共有化、情報収集時間の短縮化、安全性の向上を図る。

II 研究方法

- 1 研究期間 平成 21 年 9 月～平成 22 年 8 月
- 2 対象 スタッフ : ファイル導入前 56 名 後 61 名
- 3 実施方法 スタッフに無記名質問紙調査を行った。化学療法患者の現状把握を行い、ファイルを作成し、使用前後の比較をした。
- 4 分析方法 ファイル導入前後の情報は充分とれているか、とりにくさを感じるか、化学療法施行時のインシデント・アクシデント、化学療法患者ファイルの必要性に対して対応のない t 検定を統計ソフト JSTAT for Windows を用いて分析した。

III 倫理的配慮

スタッフに質問紙調査を行う際、倫理委員会の規定のもと、匿名の保障、調査内容は研究のみで使用する旨を書面で記し、承諾を得た。

結果

ファイルを 8 ヶ月後までに導入した患者は 58 名、外来と病棟間の移動があったファイルは 39 冊。①情報は充分とれているかの質問では、大体とれているが導入前 85%、後 93%。あまりとれていないが導入前 15%、後 5%。t 検定を行い、有意差が得られた($p < 0.05$)。②情報のとりにくさを感じる人は導入前 78%、後 37%で t 検定を行い、有意差が得られた($p < 0.01$)。

③情報収集の平均時間は導入前 24 分、後 21 分。④化学療法施行時インシデント・アクシデントを起こしたことがあると答えた人は 44%。ファイル使用でインシデント・アクシデント数が導入後、減少すると思う 53%、変わらない 47%、増加する 0%。⑤ファイルは必要と考える人が導入前 91%、後 93%。⑥自由記述では「情報が得やすいことで、安全安楽な治療が提供できる」「ファイルがあれば患者状況が一目でわかる」「近々電子カルテになるため、化学療法の欄を作る際の大きな基盤になる」等があがった。

V 考察

ファイル導入前後の比較をし、情報は充分とれているかについての質問では、大体とれているの回答は増加し、「あまりとれていない」の回答は減少しており、情報のとりにくさを感じる人は大幅に減少、情報収集に要す平均時間はわずかに減少している。これは、ファイルの使用で情報の共有化が図れ、必要な情報を取りやすくなったためではないだろうか。さらに、化学療法施行時インシデント・アクシデントを起こしたことがあると 44%が答えた。ファイル使用でインシデント・アクシデントが減少すると思うか導入後に質問したところ、減少すると思う 53%、変わらない 47%、増加する 0%であり、また、ファイルは必要と考える人が導入前後とも 90%以上であり、前後とも必要性を訴える人が多かった。以上の結果は、ファイルの必要性を示唆する意見である。今後、化学療法患者ファイルが浸透することで、迅速・的確に情報収集できあいまいな情報によるインシデント・アクシデントも減少するのではないかと考える。

VI 結論

- 1 患者一人一人の化学療法の情報を一元化したファイルはスタッフから賛同を得た。
- 2 ファイルを使用したことで情報の共有化、情報収集時間の短縮化、安全性の向上に向け、一歩踏み出すことができた。

引用文献

1)阿部俊子、他:看護記録・クリニカルパス Q&A 看護記録を減らす!、照林社、2005 年。